

飛び出そう世界へ！

佐賀県出身 JICA 海外協力隊からの活動報告



写真：吉野純 隊員（2018年度4次隊/マーシャル諸島/理学療法士）

世界には、様々な事情により、支援を必要としている人たちがたくさんいます。
ここに紹介するのは、佐賀県出身の JICA 海外協力隊の方々ですが、皆、現地の人たちと一緒に、それぞれが抱える課題の克服のために頑張っておられます。
世界には、あなたの力を必要としている人がきっといます。
さあ、あなたも、一歩踏み出して、世界へ飛び出してみませんか？

佐賀県

地域交流部国際課

2020年5月



～お知らせ～

新型コロナウイルスの影響により、5月現在、佐賀県出身の JICA 海外協力隊の方々は日本に帰国をされております。

掲載しております活動報告は 2020 年 3 月に寄稿していただいたものです。



目 次

◎目次 1

◎派遣中隊員より

馬場 春樹	ブラジル	2018年1次隊	野球 2
柳田 菜摘	ヨルダン	2018年2次隊	障害児・者支援 . . . 3
松川 武照	タイ	2018年2次隊	環境教育 4
中山 諒	エルサルバドル	2018年2次隊	マーケティング 5
重松 宙輝	ガーナ	2018年2次隊	青少年活動 6
原 志帆	タンザニア	2018年2次隊	看護師 7
松尾 祐希	セネガル	2018年3次隊	助産師 8
横田 裕子	ホンジュラス	2018年3次隊	環境教育 9
吉野 純	マーシャル諸島	2018年4次隊	理学療法士 10
村山 愛	ペルー	2019年1次隊	司書 11
松村 佑介	グアテマラ	2019年2次隊	理学療法士 12
山本 恵理	ザンビア	2019年2次隊	障害児・者支援 . . . 13

◎JICA 海外協力隊に関するお問合せ先 14

◎JICA 本部及び関係機関について 14



Federative Republic of Brazil

(ブラジル連邦共和国)



普段一緒に野球指導を行っている仲間と野球部に所属している子どもたち



先日アチバイア市ではアメリカのメジャーリーグが主催する野球教室が開催され多くの子どもたちが参加しました

ブラジルに来て約1年8カ月が経ちました。私が活動を通して感じていることが、「指導者の成長なくして、子どもの成長なし」ということです。ブラジルでは日本と違い指導者に対する尊敬というものは日本ほど強くありません。良い指導者であると判断すればその指導者についていくし、指導者が良くないと判断すればあまり言うことも聞きません。そのため、自己研鑽も怠ってはいけなさと感じています。自分が成長することが子どもたちも成長にもつながるのではないかと考えています。

JICA ボランティアに参加したことで自分の価値観、視野が広がってきていることを実感しています。ぜひ皆さんも日本の外に目を向けてみてはいかがでしょうか。そこには自分を変える、高めるチャンスがたくさんあると思います。

皆さん、こんにちは。

私は現在ブラジルサンパウロ州アチバイア市という町で活動を行っています。アチバイア市はサンパウロ市内から車で約1時間ほどの場所に位置し、花、イチゴの産地として知られています。気候的にも暑すぎず、寒すぎずの暮らしやすい町です。

活動内容としてはアチバイア日伯文化体育協会に属する野球部に配属され、週6日、8歳から16歳ごろの子どもたちに野球の指導を行っています。ブラジルにおいて野球は多くの日系人がその発展・普及に貢献してきた歴史があり、グラウンド内では野球に関する日本語がポルトガル語と一緒に飛び交います。



ブラジルでは野球道具を手に入れることは簡単ではありません。JICA から寄付していただいたボールを手に写真撮影



隊員区分 : JOCV2018-1

氏 名 : 馬場 春樹

派遣国 : ブラジル連邦共和国

業 種 名 : 野球

Jordan

(ヨルダン)



段ボールで作ったスタンプ

トイレットペーパー
を使った製作



楽、スポーツなどのアクティビティや自閉症児の学習支援の活動を行っています。赴任して1年5カ月が経ち、同僚との関係性もでき、コミュニケーションもとれるようになってきました。それに比例して自分のやりたい活動が出来ているのかと思いきや、うまくいかないことの方が圧倒的に多いです。ヨルダンの人たちとは育ってきた環境も価値観も違います。そのため、考えが違って当たり前ですし、違うということを前提に置いて物事を進めるすべを最近になってようやく学ぶことができました。難しいことが多いですが、私を受け入れてくれる同僚と生徒に感謝しています。

残り7か月の任期、1日1日を大切にしながら、自分にできることを一つ一つやっていきたいと思えます。

アッサラームアライクム！佐賀の皆さんこんにちは！

私は中東のヨルダンという国で活動しています。“中東”と聞くと、少し危険なイメージがあるかもしれませんが、ヨルダンは比較的安全な国で、世界遺産などの観光スポットには観光客もたくさん訪れます。国民のほとんどがイスラム教を信仰していて、その文化の違いには驚くことがたくさんあります。

JICA 協力隊に参加したきっかけは、大学時代のサークルの先生が元協力隊員だったため、興味を持ち始めました。その後社会経験を経て、挑戦してみよう！と思ったことでした。

私が活動している地域はディルアッラーという農業が盛んな地域でヨルダンの中でも貧困地域とされています。私は障害児が通うセンターで図工、音



生徒のみんなとおりがみで家を作りました

隊員区分 : JOCV2018-2

氏 名 : 柳田 菜摘

派遣国 : ヨルダン

業 種 名 : 障害児・者支援

Kingdom of Thailand

(タイ王国)



保育園での活動



同僚とリサイクル事業の協力者

サメッタイ町では、町役場の職員だけでなく、ごみ問題・環境問題に意欲的な住民ボランティアの協力により、ごみ銀行事業も少しずつ普及して、リサイクルも進んできている一方、ポイ捨てや不法投棄がされていることもあり、日本人にとっては当たり前と思われるモラルや意識の違いを感じます。参加をしたきっかけの一つである「現職参加制度」で、このような機会を得ることができ、日本の生活では感じたり、経験することのできないことをタイで経験できました。一緒に活動をしている住民ボランティアからの「サメッタイ町のごみ問題に関係のない日本人が活動してくれることで、住民もごみ問題に取り組むきっかけになるかもしれない」という言葉を大事にして、残りの任期で自分ができることを全うしたいと思います。

サワディークラブ！（こんにちは）「微笑みの国」と呼ばれるタイでの活動も残り7ヶ月となりました。現在、バンコクの東に接するチャチュンサオ県で活動しています。任地のサメッタイ町は、自然に囲まれた平地の土地を活かしたエビの養殖や農業などの産業が盛んで、隣町には日本人にも人気なピンクガネーシャなどの観光地があり、多くの観光客が訪れています。私はチャチュンサオ県のサメッタイ町役場で、環境教育という職種で活動をしています。日本のようなごみ分別システムが確立されておらず、ごみ焼却施設もない任地で、住民や子どもたちにリサイクルをしてもらうために、「ごみ銀行」と呼ばれる住民や学校からリサイクルごみを買収するリサイクル促進事業に携わっています。



小学校での活動の様子。



隊員区分：JOCV2018-2

氏名：松川 武照

派遣国：タイ王国

業種名：環境教育

Republic of El Salvador

(エルサルバドル共和国)



伝統的な手工芸品の織物



伝統的な藍染で作られたドレス

中米エルサルバドルは、人口約 670 万人で言語はスペイン語です。季節は乾季と雨季のみ、地域によっては一年中春や夏のような気候が続きます。沿岸部にはサーフィンで有名なビーチがあり、山間部は火山が多く標高の高い地域では高品質なコーヒーが栽培されています。

幼少期に亡くした父が中南米で開発の仕事をしており、中南米の国や文化に興味がありました。親がいない家庭環境で色んな方に育てて頂いた経験から、恩送りという形で社会に貢献したい、という思いで協力隊に志望しました。

私の職場は、国家小零細企業庁という政府機関です。地域開発支援プロジェクトに関わっており、マーケティングに関するワークショップ



(VMD・ブランディング・SNS プロモーション等)を職員・小零細企業向けに実施しています。

この国の小零細企業の共通の課題は、顧客起点での商品開発やプロモーション・商品ブランド開発に関する考え方が足りません。ショッピングモールや国内企業の事例など身近に学べるものを利用しながら、彼らが考えるきっかけづくりを提供しています。

嬉野のお茶・温泉、伊万里・有田の陶器のような地域のアイデンティティとなる名産品が地域ブランドという形でこの国にも根付くよう、現地の人々とお互いに学び合いながら残り半年間エルサルバドルの人々に少しでも貢献したいと考えています。



活動中の 1 枚



隊員区分 : JOCV2018-2

氏 名 : 中山 諒

派遣国 : エルサルバドル共和国

業 種 名 : マーケティング

Republic of Ghana

(ガーナ共和国)



教員養成校でのワークショップでパソコンを使わないプログラミングの授業



紙で作ったキーボードに指に対応した色を塗る生徒

ます。少しでもこの状況を改善すべく、これまでの活動では生徒向けの授業や、教員向けのワークショップを行ってきました。昨年9月には約10名のJOCVの協力もあり、巡回先の中学校で生徒向けにプログラミング、デザイン、CG、VRの体験型ワークショップを開催することができました。子供たちは初めて操作するパソコンで思い通りにキャラクターの動きをプログラミングしたり、CG映像に出演したりとこれまで教科書の文字だけだった知識が体験とつながり、ICTについてより興味が増す機会となりました。

今はこれまで作ってきた教材(歌、ゲーム、フラッシュカードなど)を現地教員と共有するため、全小学校を対象とした教員向け教材紹介ワークショップの計画です。GESオフィサーのやる気次第ですが、無事開催できるよう話し合いを続けています。ガーナの人々には助けられてばかりなので、少しでも恩返しできるように、そして、子どもたちがICTを好きになってくれるように残り期間も活動していきたいです。

アンティリー(現地語でこんにちは)、ンナ~(返答)。私はガーナで青少年活動として小中学校を巡回しながらICTを教えています。早いものでガーナに赴任してから1年4ヶ月が経過しました。私の住んでいる街タマレは、ガーナの北側内陸部にありサバナ気候で非常に乾燥しています。今3月は乾季真っただ中で日差しが肌に刺さり、湿度は一桁、気温は45度を超え水道が止まる一番大変な時期です。良い点といえば洗濯物が2時間でカラッカラになることでしょうか。

私はGhana Education Service(GES)という機関に所属しICTの授業の質を高めるための教授法や、教材を現地の教員に教えたり、一緒に考えたりしています。ICTはパソコンについて学ぶ教科ですが、ほとんどの学校にパソコンはなく先生たちもどのように教え、子どもに興味を持たせるか日々悩んでい



教員向けワークショップでパソコンを使わないワードの授業



隊員区分 : JOCV2018-2

氏名 : 重松 宙輝

派遣国 : ガーナ共和国

業種名 : 青少年活動

United Republic of Tanzania

(タンザニア連合共和国)



旧任地でのお別れ会にて



旧任地の同僚と一緒に写真撮影

文化や考え方を知ることができ、気づかないうちに、自分の考えや価値観で物事を判断してしまっていたことに気が付きました。そうして少しずつ上司や同僚との関わり方を学び、良好な関係性を築き始め、これからというときに赴任地変更。安全上の理由のため、やむを得ない状況でしたが受け入れられず、落胆していた私を勇気づけ、最後の最後まで笑顔で新しい任地に送り出してくれたのも、いつも周りにいてくれたスタッフでした。

異動して約1ヶ月。以前の任地で培ったコミュニケーション力のおかげで、新しい職場でもすぐに打ち解け、日々の生活も用意に慣れ、新たな気持ちで活動に取り組んでいます。今の自分があるのも以前・現職場のスタッフやこれまで関わってきた人々のおかげであり、このような機会を与えてもらったことに感謝しながら、残りの任期悔いのないよう過ぎしていきたいと思えます。Karibu, Tanzania!!!

海外ボランティアに行きたい。

物心がついた頃思い描いていた夢を叶えるべく、看護師を目指すようになりました。

看護師は3年働いて一人前。どんなところでも対応できるようにと救命センターのICUで経験を積み、最短の道のりでタンザニアへ。赴任当初は言葉もよく分からない中で日々の物乞いや、停電・断水が日常といった生活に正直継続して生活することが出来ないとも感じました。また少しでも病院をよくしたいと自分で何かをやればやるほど、タンザニア人との仕事のやり方や考え方の違いに戸惑い、何のために何がしたくてここに来たのだろうか考える日々の連続でした。しかし日々病院内周りを続け、挨拶を交わしていくうちに、少しずつタンザニアの



新任地の同僚と一緒に写真撮影



隊員区分：JOCV2018-2

氏名：原 志帆

派遣国：タンザニア連合共和国

業種名：看護師

Republic of Senegal

(セネガル共和国)



かわいい赤ちゃんに癒されています。

妊娠中の過ごし方についての啓発活動の様子



なかったり、治療が中断されてしまうことが多いです。そのため、対象者の家庭を訪問し生活をモニタリングして原因解決に努めます。さらに、健康に関する啓発活動、家族計画の相談役にもなります。ここでの交通手段は馬車で、奥深くへの村へは歩くしかありません。砂漠のような道なき道を、炎天下の中1人で歩いて向かいます。体力と忍耐力がないと村へは辿り着けません。セネガルの母子保健の課題となっているアクセスの悪さ、自宅出産の多さ、医療が行き届いていない事を日々実感します。しかし、村人たちは明るく暮らしています。物質的には貧しい地域ですが心は大変豊かなのです。最近の日本人が見失いつつある点だと思います。JICAとしての活動は時間を有意義に使える事です。成長するかどうか、全ては自分次第になってきます。辛い事もありますが、支えてくれる仲間がいます。残りの任期、限られた時間を有意義に使い、正しい保健の知識を村人たちに届ける事。そしていつかこれらが村人たちに浸透し、一人でも多くの人が救われますようにと願っています。

現在、セネガル共和国の首都から約 300km 離れたカフリンという内陸部の町に暮らしています。気温は最高 46 度、1 年を通して大変暑い地域です。

協力隊に参加したきっかけは、当時清和高校の校内でポスターを見たことです。そこには、栄養失調で目とお腹が飛び出たアフリカの子どもが写っていました。この時、いつか私も途上国で人助けをしようと心に決めたのです。

私の配属先はカフリン保健区ですが、主には村で活動しています。カフリンの母子保健の現状はとても厳しく、母子の低栄養が問題視されています。そこで、村を巡回しながら気になった対象者の簡単な診察や保健指導、栄養失調のスクリーニングを行ないます。低栄養の子は来院を促しますが、来院後の経過観察も大変重要です。親の知識不足で世話が出来



栄養に関する啓発活動の様子。



隊員区分 : JOCV2018-3

氏名 : 松尾 祐希

派遣国 : セネガル共和国

業種名 : 助産師

Republic of Honduras

(ホンジュラス共和国)



グイノペ市のオレジン祭りでは環境教育を行っているところ



授業の様子

捨て禁止啓発のためのバス内ポスターや、プラスチックボトルを再利用したアクセサリーづくりなどの活動も行っています。耳が現地の言葉に慣れるのにも時間がかかったり、スペイン語原稿のチェックを依頼しても、適格に教えられる人が限られたりと、大変なこともあります。環境教育という職種から考えると、ごみをポイ捨てる人もいれば、家庭内で親から教育を受けてポイ捨てしない人もいるように、現地の人々の行動には個人差があるので、一概に「この国の人には・・・」とは言えないこと等、学ぶことも多くあります。

私は十分に社会人経験を積んでから参加しており、自分自身の知識や経験を活動に取り入れられることがないか日々考えて活動しています。また、日本の田舎で過ごした幼少時代の経験は、今の途上国の現状の中で生かせることが多々あります。現地の人達が古き良き生活文化は残しつつ、環境に配慮した生活習慣を身につけることができるように、残りの任期も引き続き活動を頑張ります。



皆さん、こんにちは。

私は現在中米ホンジュラス南東部で活動を行っています。標高約 1,300m の山間に位置し年間を通して冷涼な気候で、コーヒー、オレンジの他、玉ねぎ、トマトなど園芸作物の栽培が盛んです。

大学卒業後、技術職、民間企業、国際協力団体といくつかの職業を経験したなかで、学生時代から旅行で訪問したことがあり興味があった開発途上国の現場でローカルに活動ができるのは JICA 海外協力隊が良いと考え参加しました。

私の配属先は、エルパライス県グイノペ市役所環境課という部署で、現地で実施されている JICA ラウニオン生物回廊プロジェクトとも連携しながら、学校など地域で住民に向けた環境保全、廃棄物管理について啓発を行っています。現在は、ごみのポイ

バスのオーナーと
ゴミ捨て防止ポスターを貼るための
交渉中



隊員区分 : JOCV2018-3

氏名 : 横田 裕子

派遣国 : ホンジュラス共和国

業種名 : 環境教育

Republic of the Marshall Islands



(マーシャル諸島共和国)



患者さんに施術を行っている様子

来院が困難なご家庭への訪問診療（アウトリーチ活動）にて



日本で理学療法士として働き出し3年目が過ぎた頃、いわゆる発展途上国と言われる国々の医療事情を知る機会がありました。日本での医療とはかけ離れた現状があり、生まれた国で助かる命、病気を負った後の生活があまりにも違う。この不平等に対して働きかける仕事をし、そういう活動を世界規模で発展させ続ける事が必要だと思い協力隊への応募を決めました。

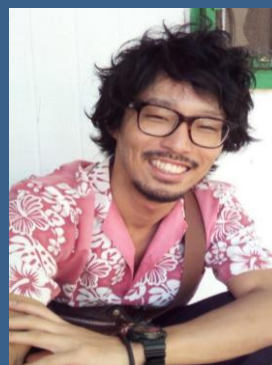
朗らかで暖かく、のんびりしたマーシャルの環境で、今しかない南の島での生活を楽しんでします。現場では、文化や考え方、言葉の違い等、苦勞は多いですが、そんな中だからこそ現地の協力者、人との繋がりのありがたさを感じる日々です。どんなに小さくても、確かに自分のこれまでの職務経験、技能が一つの国の発展、人々の豊かな未来への貢献になっている、自分の働きが世界と繋がっているという実感は JICA ボランティアとして活動している中でこそ得られると思います。JICA ボランティアについて是非、チェックしてみてください！

マーシャルは太平洋に浮かぶ人口 58000 人程の小さな島国。首都であるマジュロ環礁が赴任先です。一年を通して一貫して 30℃以上と夏日。ネックレスの様な細長い島の形が特徴的で、右を見ても左を見ても海。海拔 2m 程度であり、海の迫力を間近に感じます。

配属先のマジュロ病院は、過去に日本政府の協力によって建設された国内唯一の病院です。国内に医療従事者を育成する機関がなく、人員不足が深刻で、病院機能は外国人スタッフの存在で成り立っています。そんな環境での私の活動は、まだ理学療法士という制度も存在しないこの国で、同僚看護師に理学療法の知識、技術を日々の業務を共にする事を通して普及していく事。そしてその国内罹患率は世界一という、糖尿病の蔓延に対する予防啓発活動に携わっていく事です。



リハビリテーション部同僚の皆さんと記念撮影



隊員区分 : JOCV2018-4

氏名 : 吉野 純

派遣国 : マーシャル諸島共和国

業種名 : 理学療法士

Republic of Peru

(ペルー共和国)



蔵書点検を行っているところ



ペルーのお祭りについて紹介

時々日本文化紹介のイベントを手伝っています。

初めて配属先を訪れた日、慣れないスペイン語で挨拶すると、「初めまして」「よろしくお願いします」と、次々に日本語で返され戸惑いました。私の生活圏では挨拶や感謝の言葉、家族の呼び名などには、日本語をよく耳にします。同僚は真面目な働き者が多く、日本食も近くで手に入ります。異文化を予想していた私は、違わないところに最も驚き、「ペルーはどう？」聞かれる度、「ほぼ日本」と答えて不思議な顔をされています。

そして、移住 120 年で「日本」と感じる代々受け継がれてきたもの、ペルーと融合しながら変化してきたものを合わせ持つ、重みと面白さを感じています。

図書館での活動を通して、歴史を後世につなぐ一助になれたら幸いです。

現在 7 ヶ月。これからが本番です。

皆さん、こんにちは。

私が派遣されているペルーは、南米大陸の太平洋側に位置し、日本の約 3.4 倍の面積があります。熱帯雨林、アンデス山脈、砂漠、海と、国内でも多様性に富んでいます。観光地や各地に住む 6 人の同期隊員を訪ねて、様々なペルーを知るのが楽しみです。

私の配属先はペルーの日本。首都のペルー日系人協会が運営する図書館です。日本人移住に関する資料や、日本語の資料を多く所蔵しています。母語でも迷う資料の分類を、他の言語で行うのは同僚にとって負担が大きく、未処理の日本語資料が書庫を圧迫していました。どうすれば今後同僚が日本語の資料を扱いやすくなるかを考えながら、書誌登録や整理など、日本語の面でのサポートを中心に活動し、



自分で折った折り紙で遊ぶ子供たち



隊員区分 : JOCV2019-1

氏 名 : 村山 愛

派遣国 : ペルー共和国

業 種 名 : 司書

Republic of Guatemala

(グアテマラ共和国)



陸上選手のトレーニング風景



脳性麻痺児の治療風景

グアテマラ共和国は中央アメリカに位置し、平均気温 10 度～26 度と過ごしやすい気候です。任地は、世界一美しい湖と称されたアティトラン湖という大きな湖に面しています。公用語はスペイン語です。

専門学生時代の海外研修でカンボジアを訪れた際の病院見学の中で、多くの患者に対してスタッフが不足している現状や、ベッドがなく床でリハビリを行っている様子などを目の当たりにし、日本の環境がいかに恵まれているのかという事と共に、自分が途上国の困っている人々に何か出来る事はないかと思ったことが JICA 海外協力隊に志望した動機です。

私は、NGO の ASOPADIS という障害者支援

団体に所属しており、主に障害児の言語療法や理学療法、障害者スポーツのボッチャや陸上、啓発活動等を行っています。主な活動内容は、障害者スポーツ指導者への助言、トレーニング内容の考案、選手に対する理学療法の提供などです。

活動の中で一番苦労していることは、言語の壁です。日常生活から仕事まで全てスペイン語を使う必要があり、また相手の話が理解できないことや、自分が言いたいことを伝えられないことに苦労しています。しかし、少しずつ言いたい事が言え、相手の話が分かる際には楽しさもあります。

JICA ボランティアのメリットとしては、多くの人と出会えることです。同期、先輩隊員、現地の人々や JICA スタッフなど様々な分野の人の経験や話を聞くことができるのはとても貴重な機会です。これからも人との出会いを大切にして、活動していきたいと思っています。



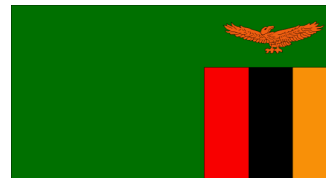
脳性麻痺児の治療風景



隊員区分 : JOCV2019-2
氏名 : 松村 佑介
派遣国 : グアテマラ共和国
業種名 : 理学療法士

Republic of Zambia

(ザンビア共和国)



屋外の遊具は子どもたちも大好きです。シーソーは一人ではできないので、自然と人とかかわりながら遊ぶことができます。自分も思わず童心に帰って遊んでしまいます。

私が活動しているドラディケア特別学校には、知的障害や自閉症スペクトラム、脳性まひ等の障害を持つ小学生から高校生までの総勢 25 名の子どもたちが通っており、現地の先生たちとチームティーチングで子どもたちの支援・指導を行っています。

ザンビアに来て 3 か月、言葉の壁にぶつかっていて、今は伝わらないもどかしさや、わからないモヤモヤを日々感じています。早く子どもたちや先生方と意思疎通が出来るようになりたいです。しかし、コミュニケーションは「言葉」だけではないと感じることも多々あります。ダンスや音楽、体を動かして遊ぶことは、言葉がなくても楽しさを共有出来、楽しいと感じるポイントは万国共通なんだと感じました。とはいっても、まだ歌のレパートリーは少なく、ダンスのステップは見様見真似でしかできません。練習を積み、体にザンビアのリズムを刻みたいと思います。

ザンビア共和国はアフリカ南部に位置する内陸国です。ジンバブエとの国境には、世界遺産にも登録されている雄大なヴィクトリアの滝があり、いくつかある国立公園ではゾウやライオンなどの野生動物を見ることが出来る自然豊かな国です。気候は南半球にあるため夏冬が日本と逆です。公用語は英語ですが、国内には 73 もの部族が存在し、地域によって異なる言語が用いられています。一人ひとりに握手をしながら相手の調子を尋ねるような、挨拶をとっても大切にしている文化です。現地語で挨拶をするとザンビア人はとても喜んでくれます。

学生の頃にテレビ CM で青年海外協力隊を知り、特別支援学校での 5 年間の実務経験を経て自分にもできることがあるかもしれないと思い参加しました。



Activity of Daily Life の授業で屋外の掃除をします。それぞれ得意なことを生かして役割分担をしながら、枯葉集めや雑草取りをしています。



隊員区分 : JOCV2019-2

氏名 : 山本 恵理

派遣国 : ザンビア共和国

業種名 : 障害児・者支援



JICA 海外協力隊に関する問い合わせ先



- 総合受付窓口ーJICA や国際協力に関する総合的なお問合せ
TEL : 03-5226-6660 から 6663 (JICA 本部 代表)
- JICA 海外協力隊に関する問い合わせ
TEL : 03-6734-1242 (JICA 海外協力隊募集事務局)



JICA 本部および関係機関について

- JICA 本部
住所 : 〒102-8012 東京都千代田区二番町 5-25 二番町センタービル
TEL : 03-5226-6660 から 6663 (代表)
HP : <http://www.jica.go.jp/index.html>
- JICA 九州
住所 : 〒805-8505 福岡県北九州市八幡東区平野 2-2-1
TEL : 093-671-6311 (代表)
HP : <http://www.jica.go.jp/kyushu/index.html>
- JICA デスク佐賀
住所 : 〒840-0826 佐賀県佐賀市白山 2-1-12 公益財団法人 佐賀県国際交流協会 内
TEL : 0952-25-7921